会 議 結 果 （ 報 告 ）

件　　名	令和７年度 第１回 中野市生涯学習推進会議小委員会
年　月　日	令和７年11月20日（木）午前10時～午前11時
場　　所	中野市役所５階　会議室52
出　席　者	生涯学習推進会議委員（３名）:増田正明委員、阿部恵子委員、山口光雄委員 事務局：小林生涯学習課長、冨田課長補佐兼生涯学習推進係長、千田副主幹
欠　席　者	髙野美紗委員、藤澤重徳委員、寺島正友委員、山口佐織委員、宮崎美江委員
会 議 概 要	**１　開会** 生涯学習課長 **２　会議事項** ⑴ 委員長及び副委員長の互選について 設置要領第４条の規定により行い、次のとおり決定した。 <u>委員長　増田正明委員</u> <u>副委員長　阿部恵子委員</u> ⑵ 第３次中野市生涯学習基本構想策定方針（案）について【資料２】 ⑶ 第２次中野市生涯学習基本構想の総括等（案）について【資料３】 ⑷ 生涯学習に関するアンケートについて【資料４】 【質疑・応答】 **⑵ 第３次中野市生涯学習基本構想策定方針（案）について【資料２】** 委 員 長：日程を確認します。資料２の３ページをご覧ください。今日、11月に第１回の小委員会が行われています。来年の１月中下旬に第２回の小委員会の開催、２月に第１回生涯学習構想策定委員会（生涯学習推進会議全体会：19名）を開催して、ほぼ資料２～４の内容を決定していきます。そして、この２回の小委員会と全体の推進会議（策定委員会）を行って、令和８年度４月

からこのような流れになっていき、仕上げていくということです。

⑶　第２次中野市生涯学習基本構想の総括等（案）について【資料３】

委 員 長：ここでは、「２　構想策定の趣旨」あるいは「５　基本方針」の「第４　上位計画との関連」等に書かれていますけれども、第３次中野市生涯学習基本構想は、本市の最上位計画である第３次中野市総合計画との整合性を図ります。つまり、私たちが勝手に中野市生涯学習基本構想を策定しているわけではないんですね。上位計画があるわけです。中野市総合計画はいつ出来ますか。

回　　答：現在、総合計画の前期基本計画になりますが、来年４月から実際に計画期間ということで、今、策定をしております。その基礎となる基本構想は出来上がっておりまして、それを元に、次の基本計画の前半部分を今、策定しています。市のホームページでも、毎年、実施計画を策定し、パブリックコメントを募集しているのですが、中野市の頂点といわれる計画が総合計画といわれるもので、その中に基本構想、基本計画、実施計画と続き、大きなピラミッドになっています。

委 員 長：中野市総合計画が今、計画準備中ですけれども、ネットにも載っていますか。

回　　答：はい。

委 員 長：基本計画の前期を策定中ということですが、その中に生涯学習もあるんですよね。

回　　答：はい。

委 員 長：その基本政策の「ふるさとを学び育つ文化のまちづくり（文化・生涯学習）」とされており、それに則り、私たちは計画を立てていくんだということですね。このように上位、最上位計画があるんだということです。また、それと並行して、中野市教育大綱も上の概念としてあるわけです。そのようなことをちょっと

	頭に入れていただければ良いかなと思います。つまり、私たちが勝手に作っていくという世界ではないということです。そこが、総括の一番大事なところかなと私は思いました。 回　　答：市の他の部局におきましてもいくつか計画を策定し、公表をしているのですが、どの部局、部署におきましても、先ほど私が申し上げましたとおり、この総合計画というのは中野市の頂点に立っている計画ですので、この計画との整合性を必ず図らないといけませんので、必ず、どの計画の策定に関しましても、総合計画との整合性を図るということが、一つの形となっておりますので、その辺はご理解をお願いしたいと思います。 **⑷ 生涯学習に関するアンケートについて【資料４】** 委 員 長：私自身、一番大事なのは資料４だなと思います。資料４のアンケートを見るにつけ、この第２次中野市生涯学習基本構想を見て下さい。２ページ、３ページを見ると、このようにアンケートを来年５月にとり、そして、それを集約していくわけですけれども、こんな方法で市民アンケート、団体アンケートをとるということが３ページに書かれていますよね。これを私、読ませていただいて、１つ疑問だったのが、市民アンケートの調査対象は、市内の20才以上の市民の中から、912人を無作為抽出となっていますが、今回もだいたいこんな方法でいくのですか。 回　　答：76区ございまして、区あたり12人程度×76となると、こんな数字になるんですが。 委 員 長：１つ疑問なのは、20歳以上の市民の中からとありますが、年齢幅は無制限ですか。20代から30代は何名、30代から40代は何名というように年代は考えないのでしょうか。 回　　答：すみません。その部分はちょっと確認できていません。申し訳ございません。また、調べてお答えします。 委 員 長：私が実際アンケートをやってみて、私が30代だった時とそして

	今、70代になった時とでは、全然、答えが違ってくるんですね。30代の時は１と答える。でも、70代になったら４だぞというようにやっぱり違ってくるんですよね。ですので、やっぱり年代も考える必要があるのではと思いました。それで、冊子の４ページ以降を見てください。そして、このアンケートをどういう視点で分析しているのかということが８ページまで書かれています。市民アンケートに限って言いますと、４ページ、１つの視点が「生涯学習に対する市民意識」から分析しています。２点目は、６ページへいってください。「学習に対する意欲」の視点から分析しています。それから７ページに３つ目として、「生涯学習への取り組みの阻害要因」が記載されています。この３つの視点から市民アンケートでは、分析しています。そして必然的に、第２回のアンケート結果は、19年度、28年度の経年比較をしているわけです。ですから、今回、令和８年度でアンケートをとったものも、３回に渡る経年比較になるだろうと思います。このアンケートはそんなに項目は変えることはないだろうと思います。経年比較していますから。でも、皆さん、また、１月９日提出に向けて、また、自分でアンケートをやってみて下さい。すると、私も一度やってみたんですけども、どうも、20年前に考えられたものと今の社会情勢を鑑みた時に合っていないよというものもあるんですね。でも、経年比較ですから変えることはできないみたいな、そんな問題も出てきますけれども、そこがいろいろ複雑に交錯しているような気がします。次に資料４のアンケートを見てください。このうち、問２だけ前回との比較欄で「無」と書いてありますよね。これが「無」というのは、前回はこのアンケート項目はなかったけど、今回はいれますよということですよね。あとは、経年比較ですから、みんな「有」ということで同じものです。この同じもの、「有」

	でいいのかどうかという検討も必要だと思いますし、今の時代、問２のような新たなものを入れた方がいいという、こんな項目を入れた方がいいというものが必要になるかどうか、その検討も必要です。例えば、10年前は、この問２の⑴を見てください。仕事、生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の考え方、そして⑵「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動）の優先度的なことが書かれています。つまり、新たに10年前にはワーク・ライフ・バランスを入れているわけです。ちょっと実際のアンケート項目を見てください。問２あなたの「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」についてお尋ねします。仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）という言葉をご存知ですかという質問です。そして、さらに「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」等の優先度について、現状の生活に最も近いものを一つお選びください。私は仕事優先ですよ、私は家庭生活優先ですよというところから選びなさいということなんですね。これを新たに入れている訳です。どこかの国の首相で言えば、⑵は１でしょうね。働いて、働いてと言っている訳ですから。しかし、注意しなければいけないのは、この新しい項目を入れても、全然、冊子でいうと４ページからの分析項目の３つと関連しないものを入れたら意味がない訳です。分析項目とも関連するものを入れていくということが、必要になってきます。ここで言うと、この⑵はどの分析に関わっているかというと、冊子の７ページを見てください。生涯学習への取り組みの阻害要因という３つ目の分析の視点に、ワーク・ライフ・バランスの認知度ということで、ここに分析として入れている訳です。ですから、新しいものを第３次の生涯学習基本構想の策定として入れたいという思いはあるのですけれども、分析項目と関わらないものを入れても、それだけでは浮いちゃうとい

	うことで、無理があるかなと。そこら辺も考えていかなければいけないなと思います。ちなみに、この10年で話題になっている言葉といったら、生涯学習の中で、私が勝手に考えたものとすれば、「人生100年時代」あるいは「リカレント」（学び直し）、それから最近、言われ始めた「ウェルビーング」（良い状態に個人も社会もしていくこと）ですか。この辺りが私には考えられるかなと思いますが、これが、例えば、こういう言葉を知っていますか、内容はどうですかということを質問事項に入れた時に、この分析と噛み合うかどうかということも検討していかなければいけないですねということです。このアンケート調査は３回目になりますが、基本的には、経年比較をしていくんだということです。前回は２回の経年比較でしたが、今回は３回の経年比較にしていくということです。そして、２つ目は、今回、新たに、前回、ワーク・ライフ・バランスを入れましたが、今回、最近の言葉として入れていく必要があるだろうか。必要があると思うんですね。私は。やはり10年も経っているんですから。しかし、分析と比較しながら、どういうものを入れていくことが適正なのかを検討していく必要があるだろうという思いがします。 副委員長：基本構想を読み込んでいないので、全然ピント外れなことを言ってしまうとは思うのですが、いわゆる学習というのが、個人の努力に傾きすぎてはいないだろうか。長生きする人達が一人ひとり増えて、お家で一人ひとりが活き活きと生きられるというか、自分らしくいられるということは、それはそうなんですけれども。そう言われる根底のところに、やっぱり、社会教育委員の中でも話したように、これから多様性の中、つながりということがすごく大事だという、そこがあっての一人、自分が自分として認められるというか、自負を感じられるという、そ

	ういうことが、自分が役に立つように、今、何をしてみようとか、そういう意欲につながると考えると、もちろん、みんなつながっているから学習意欲が沸いているんだと思いますし、丸っきり一人で勉強しようと思ってコツコツできるものではないと思うのですけれども。何かそこのつながりみたいなところの意識というのをみんなで共有できるようなことが、一つあるのだろうというか、あっていいのではないかということを凄く思うんです。国の方からは、誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現という大きなテーマが出ているのですが、ここの取り残されずといっても、今、経済的に凄く厳しい状況の中で、人を蹴落としても私の仕事が欲しいみたいな、極端な話、そんな状況なんかも生まれつつあるのではないかと。一人の努力で、その人が頑張っているからいいけど、こっちの人のことも考えていくだけの余裕があるのかないのかというのが、すごく今、切実な思いとしてあって、生涯学習といったらもっとみんなで生きていこうよというそういう横のつながりみたいなものというのをもう少し強調できるようなことがあるといいなと思っています。 委 員 長：私、このアンケートをやってみたのですけど、ちょっと見ていただけますか。一般アンケートの３ページの問４の⑶で、あなたはどのような方法で学習していますかという問いなんですね。主なものを３つ以内で選んでくださいということで、この１～15を選んでいくんですけども、最近の傾向として、副委員長の話にもありますが、こういうつながりの中で、学習していこうという意識が本当にあるのか、独学でやればいいじゃないかという、そういうものもあるような気がするんですよね。通信教育、テレビ・ラジオ・ビデオ等、あるいは書籍というのは、一人でやっていくものですよね。しかし、講座的なものを選ぶ

	としたら、これはつながりの中でやっていく、そこら辺もちょっと加味したこういう質問項目になっていくかなと思ったりもしましたけれども。今、私もやっていますが、一人カラオケとか、カラオケなんてつながらなくて一人でやったほうがよいかも知れない。２ページを見てください。問４の⑵の中で問４-⑴で１又は２と答えた方にお尋ねします。何を学習していますか。主なものを３つ以内で選んでください。この11を見てください。コーラス・カラオケと書いてあるんですね。これはこの20年前は、コーラス・カラオケは仲間としてやったんですよね。だけど、最近は、一人カラオケが出てきて。仲間とともにということで、コーラス・カラオケの枠を作ったと思うんです。イメージの中で、最近は一人カラオケがあるわけですから。なかなかこれを二つセットにするのも、今の時代どうかなと思ったりもするわけです。経年比較をしていますから、これは良いと思いますけど。例えば、項目として経年比較していくことはしていくんですが、この項目は20年前の項目だよ、今の項目としてはちょっと違うのではみたいなものもあると思います。ですから、是非、このアンケートを自分で答えてみてください。そうすると微妙に違いなんかも出てくるかも知れません。 山口委員：このアンケートを年代で平均的にやらないと意味がないのかなと。たぶんやっている気がするんですけど。この結果も年代別で別けると、相当、回答が違うと思うんですが。それと、前回の回収率を見ると、団体が80％、個人が40％で半数返ってきていない。この辺ももっと個人のアンケートの回収率を上げないとあまり意味がないのかなと。そのためにどうすればいいかという話なんですけれども。団体は80％でほぼ返ってきているんですけど、この辺も少し考えないといけないのかなと思います。 委 員 長：40.4％。選挙ならいいけどね。選挙なら高いですけど。そこら

	辺も事務局の方で参考にしてください。非常に大事な意見だと思います。 委 員 長：いよいよ、１月９日締切ということで、自分がこの３枚のプリントを仕上げてくるんだというところから、資料２～４の中で、もっと聞いておいたほうがいいな、もう少し、みんなで話し合っておいたほうがいいなと思うようなところがあれば、阿部副委員、山口委員の順にお話してください。 副委員長：総括を今、されている段階で、中野市の特徴と言いますか、全面改訂ではなくて、この点に重点を置いて、次のステップにしたいというものはありますか。 回　　答：まだ、まとめている段階です。 副委員長：たまたま、資料２の生涯学習を取り巻く市の状況の中に、第４次教育振興計画で、子どもの未来づくりの中で、学校、家庭、地域の連携支援がうたわれていることから、スポーツ活動の振興では、「第３次中野市スポーツ振興計画」、健康づくりの推進では、「第３次食育推進計画」が策定され、健康づくりを通じた取り組みの推進、長寿時代の安定したシニアづくりのため、介護保険事業計画が策定されるなど、市が進める生涯学習関連事業の計画が策定されていることに伴い、推進体制も変化してきていますという風に、かなり力点を置いた活動計画が推進されてきているという風にも読み取れますので。スポーツ活動については、中野市はかなり生涯学習的には他市を抜いてますよというわけではないですが、かなり傾向があるのではないかとか、何かあるのではないかと思いました。見えるところがあればということでと思いました。まだ、取りまとめていただいている最中なので、まだそこはということであれば、まとまっていないということならば、それで結構です。 委 員 長：中野市基本構想として、生涯学習の項目で出ているのは、課題

	から大綱へいっているその大綱の中に、２点あるかと思うんですね。余暇の過ごし方や能動的に楽しむことができる環境づくりを総合的に推進しますというのが１点。２つ目は、ふるさと中野市らしさのある学びやつながりを感じることができる機会づくりと、その活用を進めます。この辺りを受けてくるんじゃないかなと思います。基本政策４の大綱にその２点が課題から引っ張り出されてきた大綱としてあります。これらを受けて、生涯学習も計画策定されていきます。 山口委員：このことではないんですが、できれば次回の小委員会は、もう少し人数を。今日は欠席の連絡なく、その方が来ていれば半数ということだと思うんですが、ちょっと案なんですが、だいだい通知が早めにくると思いますが、実際にこの会議の一週間くらい前に、この資料を郵送することはできないでしょうか。健康づくり推進委員もそうなんですが、一週間くらい前に資料が郵送されて、当日、持参してくださいという形でくるんです。そうすると、やっぱり資料が多いので、ここに来て何か意見を求められても、見る時間、何を見ていいかよく分からないので。そうすると、忘れていた人たちも、たぶん一週間くらい前に来たら、そういえば、この日だったと思い出すきっかけにもなると思うので、その辺、事前に送っていただければ、家で少し読んできたりできるので、そういう形にした方がいいとは思うのですが。 回　　答：わかりました。 委 員 長：それでは、今日、欠席された方には、今日の資料を配布し、そこにこのレポート３枚を提出いただく文書を添付していただき、さらに電話でお願いするということです。 ３　その他 ・先ほどアンケートの話がありましたが、毎年行っております中野市の

	市民満足度調査がございます。その中に我々のこのアンケート部分を掲載してもらって、調査を実施するということでございます。一番、直近のものでは、令和７年５月、６月で実施したものがございまして、参考としてお話させていただきますと、18歳以上の市民から2,000人を無作為抽出、郵送により配布し、郵送またはＷＥＢ回答により回収をしております。2,000票を配布しまして、回収が701票、回収率35.1％というような直近の状況です。回答をいただいた年齢層をみると、ある程度バラけておりますので、各年齢層ごとに平均的に抽出しているとは思われます。その辺りにつきましては、もう一度、確認をさせていただきます。この調査結果は、広報にも掲載されています。 ・先ほど、山口委員からのご意見を踏まえまして、資料を極力、送るような形で、２、３日前になりましたら資料をご覧になりましたかとか、あるいは出欠報告が出ていない方につきましても事務局から再度、確認をとるような形をとって、できるだけ基本構想策定にあたっては、大勢の方の意見を取り入れたいと思っておりますので、その辺はまた事務局の方でも努力してまいります。 **４　閉会** 生涯学習課長

中野市生涯学習推進会議小委員会名簿

役職等	氏　　名	選　出　団　体　名	備　考
委員	増田　正明	社会教育委員	出　席
委員	阿部　恵子	社会教育委員	出　席
委員	髙野　美紗	社会教育委員	欠　席
委員	藤澤　重徳	社会教育委員	欠　席
委員	寺島　正友	文化財保護委員会	欠　席
委員	山口　光雄	スポーツ推進委員	出　席
委員	山口　佐織	公募委員	欠　席
委員	宮崎　美江	公募委員	欠　席

（敬称略）

事務局

生涯学習課長	小林　雄一
生涯学習課長補佐兼生涯学習推進係長	冨田　訓宏
生涯学習課副主幹	千田　尚功